

傍楽仲間達がつなく紐帯「スクラム組もうぜ!」

紐帯



傍楽仲間達、延いては我が社に関係する総ての人々がそれぞれの家族や親しい人々と共に幸せになること、それこそが私の願いで有り、経営理念に謳いあげたこと。

ゆえに、我が経営に於いて所謂「家族主義的」な紐帯は大切にするものの、私は傍楽仲間達のことを家族、或いは家族のよう、とさえ、決して云わぬ。「疎きは親しきを隔てず」、親子、夫婦、親しい友達等それらの紐帯は不可侵で有るべきだと歴史も教えてくれている。

それでは、私達傍楽仲間達の紐帯とは如何様なものか?それは、上記家族や友人を結ぶ慈愛に満ちた紐帯では無く、闘いのなかで高い要求度合いで御互いに求められる紐帯、即ち、飛躍を恐れずに云わば「スクラム」。

左様、ハリー・ポッターの作者として知られるイギリスの作家J・K・ローリングが試合後に「こんな話は書けない」とTwitterで述べた、ラグビーワールドカップ2015日本対南アフリカ「ブライトンの奇跡(The Brighton Miracle)」と呼ばれる、ラグビー史上のみならず、スポーツ史上に於いて屈指の世紀の番狂わせ、ジャイアントキリングと評された其之試合最終局面で、監督が指示した、それでもきつと充分に世界を驚かせたであろう同点のペナルティゴールでは無く、最前線の選手達皆が勝利の為に選択し、世界最強チームのひとつで有る南アフリカをして辟易させたで有ろう、あの「スクラム」。結果は御覧の通り、劇的な逆転トライと相成った。

無論、先述したように世界を驚かせた其之逆転トライは上記奇跡の大団円で有るが、選手達は当然左様には想わず確信しておるはず、顧みる文字通り全身全霊血みどろの訓練鍛錬が導いた必然で有ると。

私達は今、私が社長訓示等で幾度も云うように、過去に例無く他に類見ぬ上場企業二社同時再生+1の最終局面、激動の時代に停滞は後退と同じ、為ればこそ、同点じゃ駄目だ、さあ、夜明け前の最も暗い闇のなかで「スクラム組もうぜ!」

代表取締役社長CEO兼グループCEO

小野有理